

読者の

お便りにお答えします。

医師会へのご質問は中綴じの「はがき」をご利用ください。なお、個別の病気のご質問には応じかねますので、ご了承ください。

**Q** 初期研修修了後の若手医師の進路について教えてください。

**A** 平成16年度より開始の卒後臨床研修新制度は、何科に進路を進めても今後の医療に対応できるよう、卒後のフレッシュな時期に医師の基本的な技能や姿勢を身に付けることが目的となっており、逆を言えば、今までの医師の研修制度は卒後すぐに専門性の強い分野での研修が始まることから、それらの基本的な問題に十分な教育がなされなかったという反省に基づいています。

新制度では厚生労働省認定の研修病院で研修することが義務づけられており、修了しない者は、開業ができないなどの制限が付きまします。その研修病院で2年間の研修修了後、今の医療の状況からは専門的な研鑽がどうしても必要になります。

で専門研修ということとなります。その専門研修については、自分の目指す専門分野について、大学病院など専門研修にふさわしい病院を各自が選択して受けることとなります。

実際にはあと1年以上先になりますが、専門研修の具体的なカリキュラムや内容については今後多くのところで出されることと思います。また、耳鼻科や眼科などはそのまま専門研修になります。内科や外科についてはその後、専門分科化されず、内科や外科なりの総合的な研修を用意するところもあります。

大学病院では平成18年度までの2年間医局への入局者がいないため医局員不足で大変なところが多く、卒後臨床研修修了者がいかに多く入局してくれるかが死活問題となっているところもあるようです。石川 広己(県医師会学術情報システム担当理事)

**Q** 学校医は誰が任命し、どんな活動をしているのですか？

**A** 学校医とは、「学校保健法」によって任命される医師(内科、眼科、耳鼻咽喉科)のことです。他に学校歯科医、学校薬剤師がいます。学校医の任命機関は、県立学校は県教育庁、市町村立学校は当該教育委員会、各地区医師会の推薦を受けて任命します。任期は2年です。

学校医の主な職務・日常活動について列記します。参考としてください。

1-1 主な職務

- 児童・生徒の定期健康診断
- 臨時・就学時健康診断
- 予防接種

2-1 日常活動

- 救急措置
- 保健衛生・感染症の管理指導・改善
- 学校職員の健康管理
- 学校保健委員会の充実
- 校内における児童・生徒の急病、外傷などの的確な指示
- 修学旅行・運動会等課外授業の疾病個別児指導
- 小1、中1、高1等の心臓検診
- 小1~中3の結核健診
- 校内・外感染症の現況把握と予防措置
- 校内保健委員会、学外学校保健会に参画指導及び講演

宮地 直丸(県医師会学校保健担当理事)

され公的医療保険の基本的体制は崩壊を免れませんでした。しかし、混合診療特区を突破口と考える推進会議議長は、特区制度のあり方を見直す意思を表明しており、この問題は今後なお、紆余曲折が予想されます。

一般の方々としては、自分の「T」に合う医療が保険診療と併用して自費で自由に受けられたら便利と受け止められるかもしれませんが、高度な先進医療や国内未承認の薬剤から「T」の日常医薬品販売に至るまで、有効性や安全性よりも効率性を優先して提供する仕組みの危険性も重要視すべきで、これらの技術や薬剤を迅速に医療保険に適応させる仕組みなどを考えるべきです。

混合診療解禁により公的医療保険から自由診療への移行が漸増し、個人負担が増えるがゆえに公的医療費の節減となるわけですが、自費受診では個人が支払える額に限界があり、民間医療保険会社を創設し、第二医療保険として加入を促す図式が考えられ、市場原理主義者が医療を100兆円市場と考える根拠がつかえます。

小泉内閣の社会保障制度改革は財政面だけが重視されており、日本の国民医療費が高過ぎるということで、アメリカと社会基盤が大きく異なる日本の医療分野に市場原理主義を導入しようとする考えは、国民に大きなダメージを与えるだけに終わるのではないかと危惧します。

日本は近々、「国民の命と健康の値段」が先進国の安値になること確実とも言われています。国民1丸となつて、不条理な社会保障制度改革は是正する必要があると考えます。

「健康メモ」放送予定

NHK千葉放送局のFMラジオ番組「ひるどき情報ちば」(11時~12時)内で放送(周波数:千葉80.7/銚子83.9/勝浦83.7/館山79.0)。放送テーマ、出演医師は変更になる場合があります。なお、第1火曜日は歯科領域がテーマとなります。

4月12日(火)

初夏に多い病気と漢方治療  
秋葉 哲生医師  
(あきば病院理事長)

4月19日(火)

不整脈と言われたら  
関谷 貞三郎医師  
(関谷医院院長)

4月26日(火)

腎不全  
鈴木 満医師  
(東葛クリニック病院名誉理事長)

5月10日(火)

胃・十二指腸潰瘍  
森下 鉄夫医師  
(東京歯科大学市川総合病院内科部長・教授)

5月17日(火)

紫外線による皮膚疾患  
石地 尚興医師  
(東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科診療部長)

5月24日(火)

気管支喘息 (予定)

千葉県内医療施設  
検索サイトのご紹介

医療施設検索サイトは、以下のQRコードからブックマーク登録ができます! ぜひ、ご利用ください。

<http://www.chiba-1.med.or.jp/medicaldb/i/>



日 時 4月16日(土) 14時~17時(13時受付開始)  
会 場 千葉大学けやき会館(中央区亥鼻1-8-1) 大学構内のため、お車での来場はできません。  
対象者 一般の方(無料・定員320名)  
基調講演 「睡眠と健康」 快適な睡眠のための7箇条」  
高橋清久(藍野大学)  
講 演 「宵っ張り朝寝坊がなおせない若者達」内山真(国立精神・神経センター精神保健研究所) / 「高齢者の睡眠」三島和夫(秋田大学医

市民公開講座

健康な睡眠

あなたと社会のために

主 催 千葉県・千葉市・新世紀は健康推進協議会・日本医師会千葉県医師会千葉市医師会  
後 援 日本学術会議呼吸器学連絡委員会  
共 催 千葉県・千葉市・新世紀は健康推進協議会・日本医師会千葉県医師会千葉市医師会  
【お問合せ】お申込み市民公開講座事務局 担当 松宮(043)226)25577 043)226)2176

Q 医師の技術向上のための支援体制はどうなっているのでしょうか?  
A 今の時代は、「医師のプロフェッショナルとしての力量」を鋭く問われる時代であるという認識を持っています。それはどの世代の医師においても同じであり、卒後の初期研修や、医師になってからの専門性の維持など多岐にわたっています。また、単なる技術的な問題だけでなく、医師の場合には人と人のコミュニケーションの問題、倫理観や人間性の問題についても一定の研鑽が必要になります。  
従って医師の技術向上を支援するということは、大変難しい問題であると同時に、県の医師会などが正面に据えて行わなければならない課題であると思われれます。今までも生涯教育の観

点から日本医師会では生涯教育の制度を設けて一定の基準を達成した場合に認定証などを付与しております。その制度をさらに広げて、県医師会でも各地の学術講演会に旺盛に取り組み、各科医学会などを援助し、専門性の追求を支援しています。  
また、平成17年度より、インターネットを利用した医学講座を会員向けに計画しております。今まで学術講演を聴きに遠方の会場まで行かなければならなかったのを「コンピュータの前に座ってパッドを入力すれば講演が視聴できるようにになります。また、短い時間しかなくても、途中で視聴をやめても、次に開けたときには続きから視聴できます。さらに医師会員に使いやすい、要求に応じたものを計画していきたいと考えています。  
石川 広(県医師会学術・情報システム担当理事)

地区医師会へ  
ようこそ

16

八千代市医師会



医師会事務局  
八千代市ゆりのき台2-10  
急病センター内  
☎ 047(482)4722



杉岡 昌明会長

さらに、創立時の「スローガン」地域愛に手をうなぐ八千代市医師会を推進し、市民の皆様が満足出来る地域医療を目指して頑張りたいと思います。

<http://www.chiba.med.or.jp/yachiyo/>